次期環境事業センターの整備

県のごみ処理広域化計画との整合どう図る

議員　本市は可燃ごみの処理について次期環境事業センター建設検討委員会からの報告を受けているが、現焼却施設は稼働から一五年が経過している。今後のスケジュールをどう考えているのか。

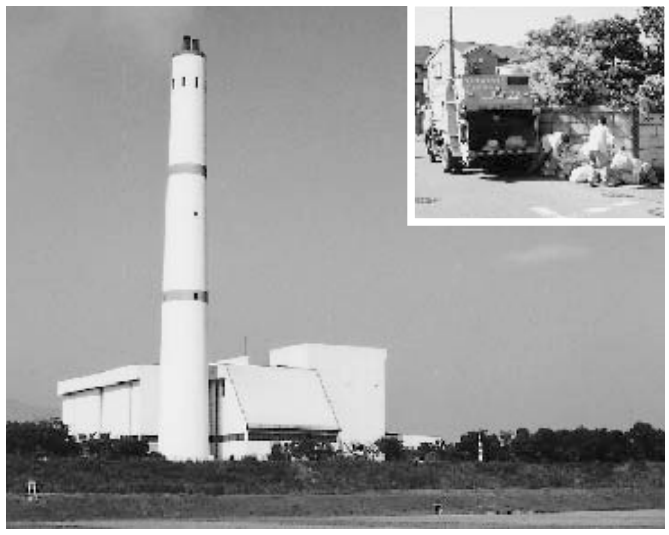
環境部長　一般的に焼却施設の耐用年数は二〇～二五年、一日当たりの処理能力一〇〇㌧以上の施設の更新については、稼働後二〇年を経過した時期が施設建設の開始時期と言われている。このような大きな施設は計画から稼働まで五年前後を要するので、時間的余裕はないと認識している。大神地区との覚書を尊重し、県のごみ処理広域化計画に基づき、現在、三市二町（平塚・秦野・伊勢原市、大磯・二宮町）で進めているごみ処理広域化実現可能性調査も並行して進めていきたい。

議員　国の指針に基づき県は平成十年に「神奈川県ごみ処理広域化計画」を策定した。この計画により県下は九ブロックに分割され、本市は三市二町でごみ処理広域化実現可能性調査を二か年で行っている。次期施設の建設において、国・県の指導と補助金交付についてどう認識しているのか。

環境部長　この国の指針は、廃棄物処理の重要な柱であり、県に対して広域化計画の策定と計画に基づく市町村への指導を求めている。県の計画では①ダイオキシン類削減の効果が確実に期待できる一定規模以上のごみ焼却施設への集約、②収集効率や事務組合等従前からの相互連携、などを念頭において広域化の範囲が示されている。国庫補助事業として次期施設の整備を進めるには、県の広域化計画との整合を図ることとされており、補助金交付の前提であると理解している。

議員　広域化と補助金交付がセットだとすると、市長が六月定例会で「三市二町の枠組みにとらわれない自区内処理を基本に新たなシステムを考えたい」と答弁した自区内処理は矛盾すると思うが、見解を聞きたい。

市長　ダイオキシン対策のために一定規模以上のごみを、二四時間連続で焼却を続けなければいけないということは、ごみの増加につながる心配があり、一方では、ごみをゼロに近づけるという政策も持たなければならない。また、次期焼却施設の設置場所についての検討は広域化処理に備えた結果ではないと認識しており、さらに、処理方式についても広い角度から検討しなければならない。公約にしていた自区内処理とは違うことは承知している。現在、自区内処理にとらわれず他に考えられる方法があれば尊重したいと思っており、十六年度までに結論を出す三市二町の調査結果を尊重したい。自治体としては焼却施設建設に際して補助金が交付される方法を選択しなければならないと考える。



重要な発災時の対応
求められる市の組織強化

議員　本市の地域防災計画は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて十四年八月に改訂されたが、本年五月に宮城県沖で発生した地震によって、災害現場での運用上の不備がないのか、縦割り行政による弊害はないのかなど、災害発生時の市の対応について警鐘を与えられたのではないか。発災時の任務分担について整合性がとれるよう整理する必要があると考えるが、見解を聞きたい。

助役　地域防災計画では、行政、市民、自主防災組織との協力を基本のひとつに位置づけ、平常時から訓練等を通じて市民、関係団体等との連携強化に努めている。庁内の組織については、防災対策を所管するのは防災課であるのに対し、発災時に設置される災害対策本部では、企画部が主体となる事務部総合対策班が中枢を担うので、日常の防災対策の推進や災害時の対応をより円滑に行うための組織としてどのような機構が最善なのか、改めて検討している。

議員　危機管理に求められる機能、組織、人員配置等についても詳細な検討が必要と思うが、進行状況を聞きたい。

助役　人員について、職員も被害を被ることを想定した配置がどうあるべきか、今後の課題と考えており、併せて検討している。

リサイクルプラザ来春竣工
施設の稼働計画尋ねる

議員　十六年四月、市内四之宮にて（仮称）平塚市リサイクルプラザが稼働し、資源再生ごみは新たな分別収集となる。収集方法等の説明会を本年十月から公民館等で開催するとのことだが、本施設の運用計画を聞きたい。

環境部長　この施設では、現在分別収集している瓶類、缶類、ペットボトルと来年四月から新たに分別が始まる「その他プラスチック製容器包装類」の四品目を処理する。搬入車両については、一日に四〇台から一四〇台程度、搬入経路は四か所を考えており、搬入搬出の車両が一か所に集中しないよう、時間帯も考慮して周辺の交通渋滞を招かないよう配慮したい。騒音、振動等の周辺環境への対策では、ごみの受け入れから搬出まですべての作業を工場棟内で行い、排風機、集塵機、活性炭フィルター等により環境保全対策を施し、生活環境影響調査の結果や施設の維持管理計画に基づき十分配慮していく。

議員　研修室等を備えたプラザ棟の運営について聞きたい。

環境部長　本施設は廃棄物の減量化・資源化、環境負荷の低減などを啓発する機能も兼ね備えている。プラザ棟の内容については地元の検討部会からの具体的な提言を踏まえ、再生家具等の展示、紙すきの体験、環境学習を通してごみの減量化や資源の大切さなどを広めるとともに、土・日曜日の開館や研修室の開放などにより、幅広く活用してもらえるように管理運営していきたい。

リサイクルプラザ　上空からのイメージ

清潔なまちづくり
環境美化への取り組み聞く

議員　街には空き缶等のポイ捨て、落書き、道路等には犬・猫のふんの放置などが目につく。市の条例に清潔なまちづくりの規定はあるが、環境美化では、各人のマナーやモラルに負う部分が大きく、全市を挙げて取り組むべきと思う。市内の学校、自治会、企業等すべての団体、組織に「マナー向上委員会」を設置して啓発活動を行うことについてどう考えるのか。

環境部長　本市では「まちぐるみ大清掃」、五月三十日の駅周辺での「ごみゼロクリーンキャンペーン」、八月十日「道の日」の官民一体での幹線道路の清掃活動等を実施している。また、昨年末から今年三月にかけては、駅周辺でポイ捨て防止の啓発等を行い、今年度も秋から実施予定である。ポイ捨て防止策としては、禁止看板およびキャンペーンによる啓発、マナー向上のための環境学習等により、根強く働きかけることが重要である。現在の活動を持続して広げることが大切であり、地域等の運動として市民の自発的な活動が望ましいと考えている。

プールの水質管理
新たな消毒方法の導入を

議員　プールの水質管理については、塩素消毒による殺菌方法を見直し、アトピー等の疾患の方でも利用できるよう、オゾン殺菌や紫外線殺菌装置等を導入する例もある。東京の立川市では屋内市営プールに食塩水の電気分解による殺菌方法を導入した。環境問題、健康問題等多くの面で改善されると思うが本市での導入の考えを聞きたい。

都市整備部長　総合体育館温水プールなど本市が管理しているプールでは、次亜塩素酸系の滅菌剤を使用している。指摘の立川市のプールは、設備費約四五〇〇万円を要するが、通年利用での維持経費は三〇～四〇％減になると聞いている。利用者の健康への配慮や費用対効果の視点等さまざまな角度から検討したい。

ごみ減量のＰＲ

議員　十六年度から、その他プラスチック製容器包装類もリサイクルに向けた中間処理まで市が行うことになるが、できるだけごみを出さずにリユースするということをもっと市民に発信すべきと思う。見解は。

環境業務課長　ごみとして排出しない工夫を市民にお願いしていきたい。市民へ配布する印刷物に記載すると同時に、十月に予定している説明会の中でも話をしていきたい。

請願の審査概要

九月定例会では、二件の審査が行われた。

「森林・林業政策の充実と雇用創出」に向けた森林関連予算の拡充を求める意見書の提出に関する請願では、現在、環境問題が重要視され、地球温暖化防止の方向で運動が行われている。そのような中、現状の山林は、放置されている状況にあるので、本請願を採択し国の努力を求めたいとの意見があった。委員会では、全員異議なく採択すべきものとなり、本会議でも採択と決定した。

平塚南部地域の医療を守るため、杏雲堂平塚病院の存続を求める請願では、この病院は、平塚南部地域の要となる病院であり、閉院は遺憾に思う。また、閉院により近隣病院にも影響を与えるので、存続に向け本市もできる限りの手を尽くし、国県にも意見書を出していただきたいので、本請願は採択すべきとの意見があった。一方、平塚南部地域の医療を守るため、市にできる限りの努力をお願いしたいという趣旨を酌み取り、本請願は趣旨採択としたいという意見もあった。委員会では、平塚南部地域の医療を守るため、市としてできる限りの手立てをという趣旨を了として趣旨採択すべきものとなり、本会議でも趣旨採択と決定した。